

# 令和3年度 自己評価（2月） 中津市立沖代小学校

## 1 学校の教育目標

自ら学び合い 仲間と共に やり抜く児童の育成

## 2 育成をめざす資質・能力

- ・自己の課題に気づき、解決のための活動を選び挑戦する力（問題解決力）
- ・他者と対話的に関わりながら、自己や他者を尊重する力（人間関係形成力）

## 3 重点目標・達成指標、重点的取組等

評定判断基準 A …達成率90～100% B …達成率70～ 89% C …達成率60～ 69% D …達成率60%未満
---

目指す資質・能力	重点目標	達成指標		重点的取組	取組指標	評価	成果と課題、及び次期（次年度）に向けての取組
至きて働く知識・技能の習得【	わかるできるを実感する	○「学校の勉強はわかる」と答える児童の割合 90%以上	学 校	C層の学力保障（年間を通した学力づくり）と授業参加ができる授業改善		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校の勉強は分かる。」児童 93%</li> <li>○市学力調査の達成率の結果からC層の減少がみられる。</li> <li>○キーワードやヒントカードは、C層にとって考えを持てる手立てとなった。</li> <li>○補充学習や宿題のやり直しなど日々の積み重ねの大切さを再確認した。</li> <li>○復習にEライブラリーを活用することで個別指導を更に継続していく。</li> <li>○教科担任制（高学年）は、児童の学びに向かう力の向上に効果が見られる。</li> <li>◇授業終末の確認問題、授業と宿題の連動、問題形式に慣れる練習、既習内容や前学年の内容の復習</li> </ul>
		(各種学力調査達成率 70%以上)		つけたい力を明確にした家庭学習の推進			
		○自ら進んで家庭学習に取り組む児童の割合 80%以上	家 庭	主体的に自分の学習・読書を計画できる力の育成	・毎日自主的に取り組む家庭学習ガイドに沿って、励ましの声かけをする。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「毎日自主的に取り組む家庭学習ガイドに沿って、励ましの声かけ」保護者実施87%</li> <li>○家庭学習の手引きを参考に、指定学習・自主学习・読書などから、各学年に応じて、忙しい中でも家庭が協力してくれている家庭が増えている。</li> </ul>
		○児童アンケートで「進んで読書をしている」と答える児童 70%以上	地 域	学習サポーターやボランティア活動の充実	・どの学年にも読み聞かせや学習サポーターとして学期に1回以上参加する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○読み聞かせは、コロナウィルス感染症の感染状況に応じて、リモートもしくは対面を随時判断しながら実施をすることができた。10・11・12月</li> </ul>
果知の状況にも対応できる思考	ら、他者と対話的に関わりながら自己や他者を尊重するが	○他者の意見を取り入れ思考を深める児童の割合80%以上	学 校	学年に応じた学び合いの姿の共通理解と自ら学び合う学習の推進		A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「他者の意見を取り入れ思考を深める」児童86% 教職員77%（1学期比：20%↑）</li> <li>○ペアやグループ、ぶらぶらタイム、グーバーチェックなどでよく対話するようになった。</li> <li>○ロイロノート（ICT）を活用し視覚化を図ったり、児童の考えを交流につなげたりすることは子どもの思考の見える化につながっている。（考え→共有→ヒントにして自分の考えを持つに有効）</li> <li>◇単元の中の最終段階で活用力を問う場（いかしてみよう等）を大事に扱う。</li> </ul>
		○児童アンケートで「挨拶ができた」と答える割合が90%以上		気持ちのよい挨拶をしようとする態度を育てる			
			家 庭	主体的に他者と関わろうとする態度を養う	・あいさつの意義について話し合い、すすんであいさつするよう働きかける	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「すすんで挨拶するよう働きかける」保護者 89%</li> <li>○挨拶の日常化で他者との関わりをより進めていく。</li> </ul>
			地 域	挨拶プラスワンの取り組みを進める	・登下校の子ども達への「おはよう」「おかえり」の声掛けを実施する	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見守り用のたすきを付けて、多くの方が登下校の見守りに参加してくれている。</li> <li>◇コロナ禍ではあるが、今後も引き続き協力をお願いしていきたい。</li> </ul>
学びに向かう力・人間性等の涵養【	自己や集団の課題に気づき、仲間と共にやり抜く力	○「学校が楽しい」「みんなで何かやることは楽しい」と答える児童90%	学 校	安心してすごせる学級づくり（人権学習と日常のつながりを意識した取り組みの推進）		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校が楽しい」児童89%「みんなで何かやることは楽しい」児童95%</li> <li>○みんなで話し合い、考え、実行するという「課題解決」の流れが、児童に定着した。</li> <li>○レクや活動、日々のトラブルを解決する過程など常に安心できる学級づくりを心がけている。</li> <li>◇人間関係プログラムの推進（定例化）を図る。</li> </ul>
		○学年や学級の課題に気づき、自分たちで取り組みを決め、解決しようとした」と答える児童の割合が90%以上		課題に気づき、自主的自発的に課題を解決していく取り組みの推進			
		○児童アンケートで「運動が楽しい」と答える割合が85%以上	家 庭	生活の中で主体的に運動に取り組む場の設定	・体育学習の年間指導計画に応じて、遊びながら体力を高めることができる場を体育委員会と協力して設ける。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「運動することが楽しい」に肯定的回答をした児童は92%</li> <li>○50M-トル走や縄跳び、体育の授業の工夫（作戦タイム）等運動好きの子どもに効果的であった。</li> <li>○放送委員期の全校への呼びかけも良いアプローチになっている。</li> <li>◇体育部のみならず全校で取り組むシステムの構築</li> </ul>
			地 域	生活の中での自分の課題に気づき改善しようとする力の育成	・生活リズムやインターネット使用についてルールをつくり定期的に子どもと話し合う。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「毎日のインターネット使用についてルール」保護者 87%</li> <li>◇新しい情報も加えた保護者への啓発が常に必要。</li> </ul>
働き方改革の	う信頼しあいの高い高向め上あ	○「沖代小学校は、困ったとき学年・分掌部等チームで助け合える職場である」と答える教職員の割合が80%以上	学 校	・チームで育てる学年・分掌運営 ・会議の前に短時間で学年会を持つなどより全体の意見を集約できる効率化された分掌会議の実施		A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「「沖代小学校は、困ったとき学年・分掌部等チームで助け合える職場」教職員 92%</li> <li>○チームとして動くことで、課題への共通理解が深まっている。</li> <li>◇若手が増えていく中で、学年部運営、学年会議の充実がより重要になってくる。</li> <li>◇少人数職種の方との情報共有</li> </ul>
				・会議の目的の明確化と各種会議の円滑な実施			
			地 域	働き方改革における学校業務の共通理解とサポート	学校の働き方改革について理解し、ゲストティーチャーやサポーターとして学校支援を行う。		<ul style="list-style-type: none"> <li>○コロナ禍で、学習サポーターを予定通りに招聘することはできなかった。今後も、できる行事ではコロナ対策を含め積極的に協力していただく。</li> </ul>